

学校教育目標	自分らしさを認め合い、協力して課題に取り組める子
--------	--------------------------

めざす学校の姿	こどもが安心して楽しく学び合う学校 教職員がこどもの自分らしさを受け止め、支援できる学校 家庭・地域から信頼される学校	めざす子供像	㊦かよく思いやりのある子(徳) ㊦かんがえを深め学び続ける子(知) ㊦がんばりがきき、ねばり強い子(知)(徳)(体) ㊦たしもあなたも健康な子(体)
---------	---	--------	---

めざす子供像を実現するための今年度の経営の重点	(1) 学校の使命＝子供に生きる力を身に付けさせること (2) 学校の中をできるだけ見える化し、協働の意識を醸成する (3) 安心・安全な環境(学級) (4) 自己肯定感の醸成
-------------------------	---

【キャリア教育の全体目標】			
〈育成すべき基礎的・汎用的能力〉			
人間関係形成・社会形成能力 かかわる力	課題対応能力 挑戦する力	自己理解・自己管理能力 見つめる力	キャリアプランニング能力 つなげる力

A…85%以上 B…70%以上 C…50%以上 D…35%以上		児童		保護者		教職員	
評価項目		そう思う だいたいそう思う	自己 評価	そう思う だいたいそう思う	自己 評価	そう思う だいたいそう思う	自己 評価
学校目標	①目標をもち、粘り強く取り組んでいる。	83%	B	80%	B	79%	B
	②自分のよいところを知っている。	82%	B	87%	A	94%	A
	③学校生活を楽しく送っている。	90%	A	96%	A	100%	A
生活	④困ったことがあったときに、お家の人に相談できる。	84%	B	92%	A	79%	B
	⑤友達や地域の人に、自分からあいさつをしている。	86%	A	71%	B	21%	D
	⑥思いやりの気持ちをもって生活している。	89%	A	86%	A	80%	B
	⑦友達やクラス、学校のためになることを進んでしている。	77%	B	82%	B	84%	B
	⑧きまりを守って生活している。	91%	A	90%	A	79%	B
学習	⑨家庭学習に自分から進んで取り組んでいる。	80%	B	62%	C	58%	C
	⑩学習に真剣に取り組んでいる。	90%	A	80%	B	84%	B
	⑪自分の考えを進んで伝えている。	77%	B	72%	B	63%	C
	⑫教師や友達の話をしっかり聞いている。	93%	A	84%	B	63%	C
健康・安全	⑬給食を楽しみにしている。	90%	A	93%	A	100%	A
	⑭進んで運動したり、外で遊んだりしている。	76%	B	79%	B	90%	A
	⑮自分の体のことを考え、健康な生活を送っている。	88%	A	76%	B	85%	A

自己評価・2学期の教育活動に向けて

- ・③と⑬の項目では90%以上の児童・保護者・教職員が学校生活や給食を楽しみにしていると感じている。今後も学校生活や給食が楽しいと思える環境を整えていきたい。
- ・②では、スマイルカードの取り組みや、日頃の保護者の方々や教師の声掛けや称揚のおかげで、子供たちが自分を客観視して自分のよいところを認められているからであり、引き続きよい表れは称揚し、価値付けてあげたり、認め合ったりすることで自信に変えていきたい。
- ・⑤では、児童の自己評価が約86%あるのに対し、保護者が71%、教職員に至っては約21%と、大きく差が付いている。登校班で揃ってする挨拶は概ねできているが、それ以外の挨拶の場面では、挨拶をしたら返してくる子、小さい声で返す子、何も返さない子など、自発的なあいさつが非常に少ないように感じる。いつでも、自分から挨拶ができる子を目指して、教師からの声掛けだけでなく、委員会等でイベントを組んで声を掛けていくなど、工夫して取り組んでいきたい。
- ・⑦では、児童の77%ができていると感じているが、約3割が友達やクラス、学校のためになることを進んでできていないと感じている。今一度、高学年の委員会活動を始め、クラス内で自分の役割をがんばっている子供たちの姿を認めていくことで、児童の自信につなげていきたい。また、そのことを保護者に伝えることで、さらに家庭でも自分の役割を果たそうとする意識を高めていきたい。
- ・⑨では、保護者・教職員共にできていると感じているのが約60%に対し、児童は80%ができていると感じている。子供は今の内容や量で十分満足しているが、保護者は「子供が進んで家庭学習をしてほしい」や教職員は「提出率の低さ、家庭学習に対する取り組み具合」などに課題を感じている。毎日の家庭学習の内容や量、夏休み・冬休みの課題など、「自分から進んで」できる家庭学習の在り方を考えていきたい。
- ・⑫では、93%の児童ができていると感じているのに対し、教職員は63%ができていると感じていてズレが生じている。教職員からすれば、話をしたのに聞いていなくて同じ説明を何回もするという場面が多々ある。話をしっかり聞くとはどういうことなのかを、もう一度丁寧に子供に指導していきたい。
- ・学習の項目ができていると思う割合が低くなっている。中川小学校の児童の大きな課題ともいえるので、研修を通し、教員の授業改善を行い、児童が「わかった、できた」という達成感を得る経験を多く積ませ、学習への意欲を高めたり、進んで学ぶ姿勢を身に付けさせたりしていきたい。
- ・⑭では、教職員は90%ができていると感じているのに対し、児童・保護者は70%代に留まっている。休み時間に外で遊んでいる子供は多くいるように思うが、昨今の猛暑による外で遊べない時期があることやコロナ禍の影響、部活が無くなって運動する機会も減ってきているなど、様々な要因から運動の二極化が進んできているように思われる。運動に対する意欲が高まる手立てを考えていきたい。